

## 総評

審査委員長 谷口元 (名古屋大学名誉教授)

今回は、久方ぶりに応募が13作品となり、多彩で優れたデザインの作品が集まり、誠に選び甲斐のある審査であった。

ところが審査を進め、各委員による投票をおこなったところ、得票数第一位が7つの作品に分散するという、驚くべき結果となった。投票を繰り返しても埒があかないと判断し、審査委員全員でどの作品を強く推薦するかの態度表明をお願いし、それこそわずかな差で選考を終えた。

今回選外となった作品も、大きく見劣りしていた訳ではないことを申し添え、会員各位におかれましては次回以降も、積極的に応募されることを願います。

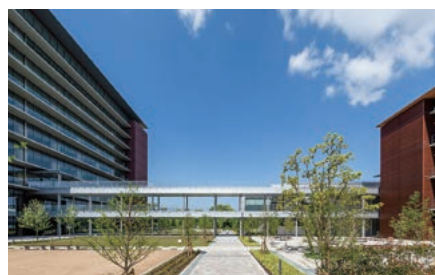
さて、今回の応募の中にコロナ禍に対応したとみられる作品が遂に登場し、優秀賞を受賞された。用途別建築の設計を従来通り続けて良しとする時代に終わりを告げつつあるように思われた。

## 会長賞

### 愛知学院大学名城公園キャンパス2期

愛知県名古屋市

株式会社大建設 名古屋事務所

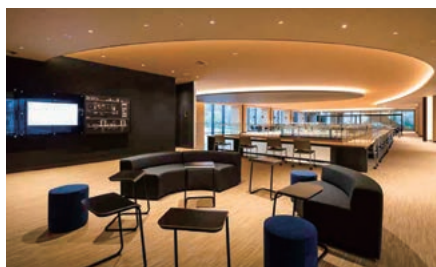
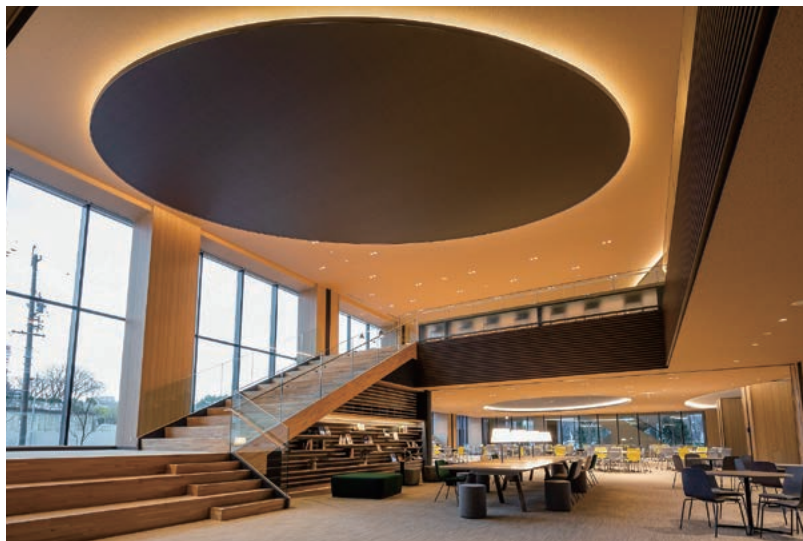
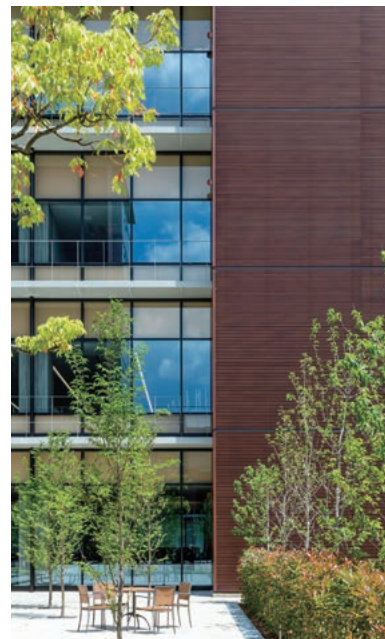


## 設計意図

本計画は名古屋城・名城公園に隣接する名古屋中心部に、文系私立大学の第4の校地として6年前に開学した名城公園キャンパスの拡張計画である。都心という立地を生かした既設の開かれたキャンパスを踏襲し、既設キャンパスの南側に約1万㎡の敷地拡張を行い、新高層棟と事務棟を増築した。

10階建ての新高層棟には2層吹抜のラーニングcommonsを大階段で空間的につなぎ、CFT構造と大スパンの無柱空間、調光LEDによる間接照明、居住域空調等ことによ

り学生が自由な学修活動を快適に行える計画とした。サステナブル・スマート（SDGs）を実現するための理念として、公園のようなキャンパスとすることで名城公園の緑を更につなげ、「分棟配置」を継承し良好な居住環境を有している周辺地域へ配慮した。また、柳原地区・名城公園との繋がりをより強化する、地域に開かれたキャンパスとするとともに、先進の省CO<sub>2</sub>技術を結集し、コミッションチューニングを継続することで更なるエコキャンパスの発展に繋げている。



## 審査委員長講評（名古屋大学名誉教授 谷口元）

かつて郊外に建設されてきた大学キャンパスが都心に回帰してきたケースである。高さ制限の緩和を許可されているためか、公開空地がかなり設けられており、芝生に覆われたマウンドのあるランドスケープの中に、品格のある建物群が適度な間隔で配置されている。周辺の凡庸な街並みが

広がる風景の中で、抜きん出ている。室内も最新の教育スペースであるラーニングcommonsが、階段状やグループスタディなど、多様な空間が備えられているようだ。クール&ヒートピットなど環境対策も万全に施されており大いに評価できる。

優秀賞

## Rural House

三重県員弁郡

葛島隆之建築設計事務所



## 設計意図

住宅の計画地は市街化調整区域で、田畑が広がるのどかな場所である。前面道路は緩やかな坂道で、敷地内には鬱蒼とした森があった。建主は、北隣に立つ母屋の1階にある歯科医院を経営しており、住宅を含めた敷地一帯の計画を望まれた。

建物は敷地境界をほぼそのままのかたちで立ち上げ、塀や垣根は設けていない。地盤の高低差は造成せず、室内にスロープとして取り込んだ。環境を建築の要素として置き換えるような設計を目指した。

建物全体を折り曲げながら等高線に沿わせ、様々な向きに部屋と中庭を配置したコートハウスとした。室内に現れる梁は全体性を考慮し、連続的にレイアウトした。

所有地であるが、市街化調整区域であるため建築することのできない西側の敷地には、遊歩道を計画した。長い間放置されていたこの敷地は、建主家族や母屋に住む親世帯の広大な裏庭としてだけでなく、歯科医院に訪れる患者さんの庭園としても利用できるようになった。

## 審査委員長講評

名称のとおり田園に建つ異形の住宅である。なだらかな傾斜のある鋭角三角形の難しい敷地の中に、機能別の部屋群を等高線に沿って各々のレベルに配置し、更に4つの中庭を間に挟んでスロープで繋げた結果、くねくねと折り曲げられたようなデザインのコートハウスとなった。どの部屋も3面以上外気に接している表面積が非常に多い建築である。

高気密高断熱や、皆のように閉鎖的な住宅デザインにいささか辟易していた評者にとっては、インパクトが強烈であった。果たしてうまく住みこなされていくかどうかは分からないが、施主と設計者のコラボレーションによって産み出されたに違いない。凡庸な住宅が多い社会へのアンチテーゼと受け止めた。

優 秀 賞

## アネシス茶屋ヶ坂

愛知県名古屋市

清水建設株式会社 名古屋支店一級建築士事務所



### 設計意図

現代社会を取り巻く社会課題の解決と木の新しい価値を創出する「木質ハイブリッド免震集合住宅」を考案した。脱炭素社会、健康安全、サステナブル社会の実現などに対する建築ができる回答を、汎用性の高い都心型集合住宅でチャレンジしたプロジェクトです。

耐震性、耐火性、居住性を合理的に実現させる建築を、各種実証実験を踏まえた上で適材適所に木造とRC造をベストミックスさせ、内部住空間及び外部都市景観に対し各種木質部材を表出させる計画とした。住まう人だけでなく、

地域住民、街並みに対しても日本人が古くから親しんでいた木の良さを再認識させて、愛着を育むクラシとマチを創出した。

再生可能エネルギーの活用、ニューノーマルを見据えた多様なワークスタイルの提案など、今後の中層集合住宅のマイルストーンとなる様々なチャレンジを行いながら、木質建築の普及啓発活動の推進、各種データの蓄積も継続的に行っている。

### 審査委員長講評

「木質ハイブリッド免震集合住宅」と命名された先進的秀作である。住宅の南北の外壁面を、耐火木構材の柱・梁で補強し、水回りコアをCLTの耐震壁で覆っている。また一部をRCとCLTの耐震合成床としてそのまま天井仕上げとしている。RCと木のハイブリッドである。スケルトンインフィル実現のためにメカニカルコアを住戸間の壁際に設けているのも良い。アースチューブやソーラーパネル

などの環境対策、被災時の汚水貯留槽まで備えており、先端技術の実験の場のようなものである。インテリアは木目を基調に施されている。最も注目すべきは各住戸にワークスペースがあり、共用部には近隣の従業員も利用できるテレワークスペースまで用意されており、ポストコロナの生活スタイルを見据えた新型の集合住宅である。

優秀賞

## スイーツバンク

静岡県浜松市

株式会社日建設計一級建築士事務所



## 設計意図

「まちの大きなリビング」をコンセプトに計画した複合施設です。「SNS 映えする建築」をテーマに、春華堂の「お菓子をきっかけに食卓を囲んで一家団樂のひとときを過ごしてほしい」というコーポレートスローガンを、巨大かつ精緻につくられたテーブルとイスの群造形で表現しました。写真1枚が瞬時に人の心を掴む SNS 時代において、社屋の姿そのものがメディアコンテンツとなって拡散され、地方都市に人を呼びます。そして集まった人々が世界に向けて情報発信したくなる。そのような記憶に残る体験価値を創出したいと考えました。

## 審査委員長講評

一見して1970年代に一世風靡したポストモダニズムの時代に逆戻りしたのかと思われた。モダニズム建築を批判したベンチャーが評価したラスベガスの世界の再来なのか。選定後に設計者がモダニズム建築を多く手掛けてきた事務所なのだとわかりました。「まちの大きなリビング」実現のために SNS 映えする建築を求めた老舗菓子店の要

建物を構成する要素は大きく2つあります。1つ目は雨をしのぎ、日差しを和らげる家具、2つ目は居住空間を確保するガラスボックスです。巨大なテーブルとイスは、まちを引き立て人を惹きつけるリアリティ追求のため、構造、仕上げ、水仕舞い、各種設備の取り合いといった建築特有の要素を見せないように配慮し、具象的な家具として表現することが設計上の要点でした。一方、ガラスボックスはこれら家具の背景となるよう、抽象的かつシンプルなディテールとなるよう心掛けました。

望に真摯に応えたとのことで、建築そのものはモダニズム、表装のデザインはポストモダニズムということで纏め上げたのであろう。ある意味では集客も見込め、喜ぶ顧客の姿も楽しく想像できる。評者の老兵は死なず、ただ消えゆくのみかもしれません。

奨励賞

## 富士高分子工業テクニカルセンター

愛知県名古屋市

大成建設株式会社 名古屋支店一級建築士事務所

### 設計意図

#### 機密性と開放性をバランスするボリューム構成

当テクニカルセンターは、シリコン技術に応用した商品開発を行う開発施設で、富士高分子工業の屋台骨を担う最重要拠点です。

材料試作、素材物性、性能チェックなどのプロセスを、そのフェーズごとにサテライトオフィスや専用諸室を経由しながら開発を進めていきます。

機密情報が多く安定した実験環境を求める研究開発においては、外部から隔離された室環境が求められます。一方で、先端の研究開発はイノベーションを求めて企業間の連携が進み、社外に開かれたオープンな状態も必要となっています。

協業エリアとなるエントランス、コミュニケーションホールのある共用部、製作・実験機器が整備された開発室と各段階でセキュリティを形成しつつ、弾力的に変運用可能な構成としました。また、開口率の強弱やルーバーの粗密により視界を制御することで、視覚的にも機密性と開放性のバランスをコントロールしています。



奨励賞

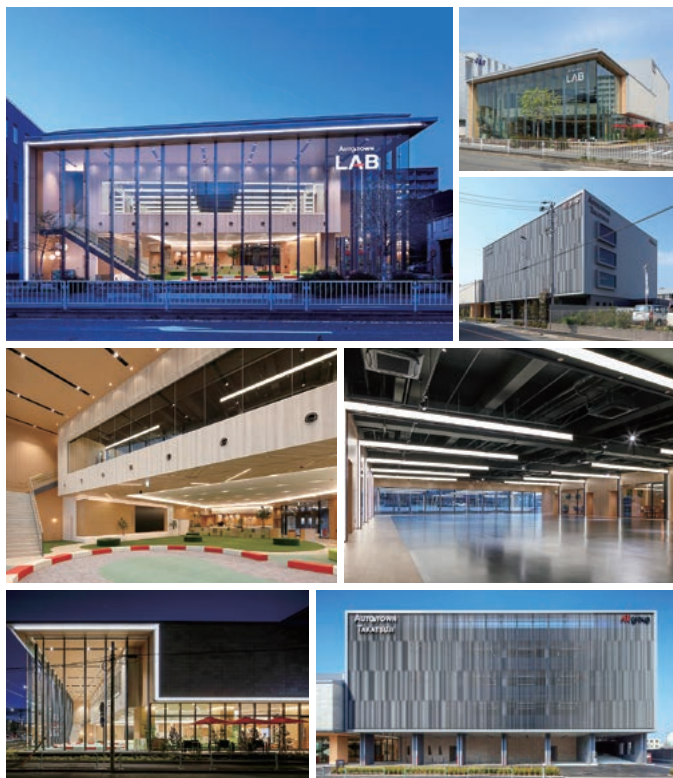
## AUTOTOWN LAB

愛知県名古屋市

株式会社安井建築設計事務所 名古屋事務所

### 設計意図

情報化社会の発展に伴い、店舗と顧客のリアルな接点は徐々に減少している。本施設は、そんな時代背景を踏まえ、新規顧客拡大と顧客満足度の更なる向上を目指した新たなスタイルのカーディーラー店舗である。建物は2階建ての店舗棟と4階建ての駐車場棟から成る。主機能を担う店舗棟は、1階をカフェ併設の全天候型無料キッズパーク、2階を完全予約制中古車店舗とするお客様目線に特化した店舗構成となっており、前面道路に面する吹抜空間がこの特徴的な空間性をファサードへと表出している。店舗棟は、無柱の大空間と将来変更に対応できるフレキシビリティが求められたため、剛性の高いSRC柱と軽量の鉄骨梁で大空間を構成し、周囲に持ち出した片持ちスラブを重しとするヤジロベ工構造により、わずか8本の柱で建物を支持した。計画地は新堀川に近い工業地域に立地するため、駐車場棟の目隠しルーバーはモノトーン色をランダムに織り交ぜた、水面のゆらめきのような表情とした。敷地外周には彩り豊かな植栽帯やカフェテラスなども設け、街並みに潤いや賑わいを提供している。



奨励賞

## MMPCコンサルタンツ本社屋 — studio mirai —

岐阜県高山市

FULL POWER STUDIO 株式会社一級建築士事務所



## 設計意図

高山市に本社を置く会計事務所

- 1 ビジネスの発展を皆で考える「結」×開かれた段床ホールと世界とつなぐスタジオの併設＝地方ビジネスを加速するグローバルオフィスの実現
- 2 つなぎ・開く＋分ける・閉じるの両立＝螺旋状のスキップフロア
- 3 M型屋根＋豊かな外部環境を生かす開口＝アルプスに呼応する風景の創造
- 4 2つの三角形の平面形状＋コアフレーム構造＝活動を発信する透明感ある外観

会計事務所には、地域のあらゆるビジネスが集まり、地域社会の縮図がある。その特性を活かし、地域ビジネスのハブを創り、コミュニケーション・クリエイティブのための空間「結」をつくり、地域社会と共に発展することを目指した。顧客、スタッフが皆で知恵を出しあう場を1階中央に、商談、講演会そしてワークショップに対応する、段床を持つ平土間空間「賑」を計画。ここでの情報を世界に発信するスタジオ「庵」を計画し、これとビジョンを活かすことで、リモートスタッフとのリアルタイム連携を実現し、WITH コロナに対応。スキップフロアにより、視線をずらし中2階以上のオフィスセキュリティを確保。屋根形状は、北アルプスに調和し、オフィス内外に風景をつなぐ仕掛けをつくることで、生産性を向上させるオフィスを実現。

奨励賞

## 第二青松こども園 ゆりかご

愛知県豊田市

株式会社小林清文建築設計室



## 設計意図

隣接するこども園の分園として、閑静な戸建住宅地の一角に建てられた木造の小さなこども園。

0～2歳の園児が安心安全に豊かな心と感性を育める場を目指して、「小さな建物が集まる輪の園舎」をコンセプトに掲げ、以下の3点をポイントとした。

中庭型…戸建住宅に囲まれ、人の行き来の多い立地の中で音に配慮しながら、園児が安心して遊ぶことのできる身近な外部環境を創る

分棟型…小さな建物の集まりで構成して、ボリューム感を周辺と調和させつつ、0～2歳児の身体スケールと親和する変化に富んだ多様な場を創る

平屋型…園児の生活の場を1階に限定することで、合理的に木造化を実現しつつ、園児を連れての通園や避難安全性に優れた計画とする

待機児童問題が深刻である一方、保育施設の音が地域トラブルになる例があるが、このように地域に対して適度な距離感を保ちながら住宅と保育施設が共存することで、地域に根差した生活風景を創り出すことを期待する。

奨励賞

RESIDENCE FUJIMI

愛知県名古屋市

株式会社竹中工務店名古屋一級建築士事務所



設計意図

高層住宅が密集するエリアに建つ、病院の寮である。建物全体にポーラス（多孔質）に配置されたテラスから寮全体に光と風を届けることで、開放的な住環境を実現した。設計期中からコロナ禍になり、テラスの価値として寮生同士のコミュニケーションの距離感が選択できることを提示している。

白い構造フレームは、高強度コンクリートを用いて柱と梁の見付け寸法を490mmに統一したスレンダーな架構としており、シンプルな構造体が周辺環境の中で存在感を際立たせている。建物中央の吹抜けとテラスが寮全体に光と風を行き渡らせているが、テラス配置はアルゴリズムによって自動生成しながら、光と風のシミュレーションを行い、最適化する手法を用いた。テラスは寮全体に立体的に連続する経路空間も形成し、オリーブの木を囲んだコミュニケーションスペースとなっている。

奨励賞

清須市の家

愛知県清須市

五藤久佳デザインオフィス有限公司



設計意図

「清須市の家」は東海交通事業城北線は尾張星の宮駅のすぐ近く、名古屋駅からは北へ車で20分ほどのところに建っている。

敷地の北は11.6mの道路に接し、南は畑、西は田んぼに面していて比較的長閑な住環境である。

建築主は「コルギ」を施術する部屋を住宅に併設するよう希望された。そのため住宅の玄関と「コルギ」の客用入口を設けて住宅に施術室が付属するプランとした。また、住宅と施術室が公私で交わらず、建築主がアクセスがしやすいように心掛けた。

住宅は各部屋がコンパクトでありながらも空間にゆとりと遊び感覚をとり入れることを心掛け、またリビングをはじめ各部屋に十分な光を採り入れる計画とした。

限られた予算の中では「安価な既製品」を上手に取り入れる必要がある。それらを採用しつつコストダウンを図り、それでも「既製住宅」とは違う品格を保ちたいと考えた。リビング・ダイニングの階段を含む吹き抜け空間と十字に切った大窓。坪庭の緑を眺められる浴室。外壁はサイディングに継ぎ目の目立たない塗装の色の選択などローコストであっても豊かな空間を創り上げることが出来た。